

第5章 守備編

【基本的守備体系について】

守備は基本的に確率論を根拠に成り立っているものと考えられる。一番打球が来る確率の高い所で守ってれば良いので、偶然性を期待してはいけない。したがって、守備位置の基本はその状況（投球コース、打者、対戦相手の作戦、カウント等）に応じて、一番確率の高いのはどこだろうと思考する必要がある。（アンラッキーや、相手がその裏をかこうとしたりして逆もありうるが・・・）

ここではまず基本的守備位置について考えたい。基本的にはグラウンドを均等に守れば、一番確率は高いと考えられる。均等な距離をたもてば全員が同じ範囲で守れる訳だが、走者等の状況によって均一的な方法も不可能になる。

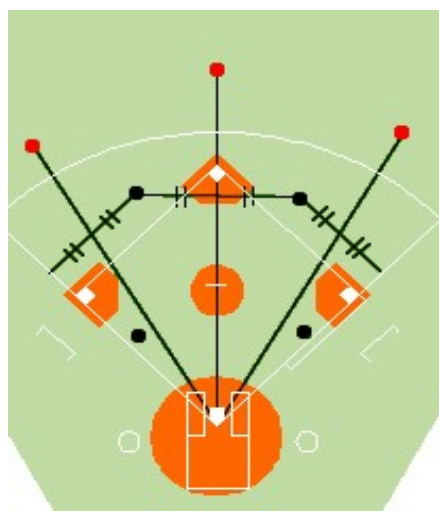
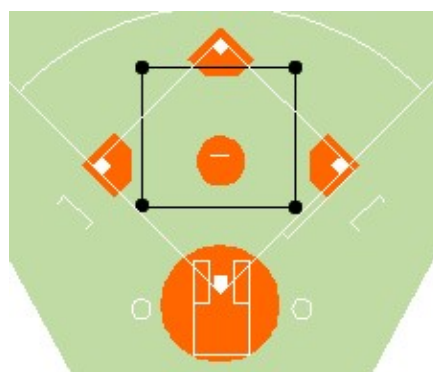
守備フォーメーション

1) 1/3 の原形

塁間を3等分した真中の範囲（中間の1/3）でその状況に応じて守備する。

2) 四角形の原形

内野手（ファースト、セカンド、サード、ショート）が等辺の位置（直角ではなく等辺）状況に応じて変形四角形になる。ただし、低学年等筋力的に応じて等辺を形成できないケースもある。



3) 1/2 の原形

外野手は目前の内野手の間に、打球のミートポイントが見えるように位置する。ただし、センターは投手の影になるため、状況に応じて左右にずれる。

守備範囲

サード

ピッチャーより左サイドは全てサードの守備範囲とする。これを捕りに行ってぬけた打球を補助する形でショートがいるものとして守る。(サードのみが進行方向にて捕球できるからである)

ショート

サードベース後方からセカンドベース後方まで。ピッチャー後方も守備範囲に含まれる。

セカンド

セカンドベース手前からファーストベース後方。

ファースト

右手方向は自分より前の打球、ファールフライを積極的に追う。バントの時は前方へうい過ぎない事。(サードの守備考)

キャッチャー

前方はホームベース前方 2m程まで。

ピッチャー

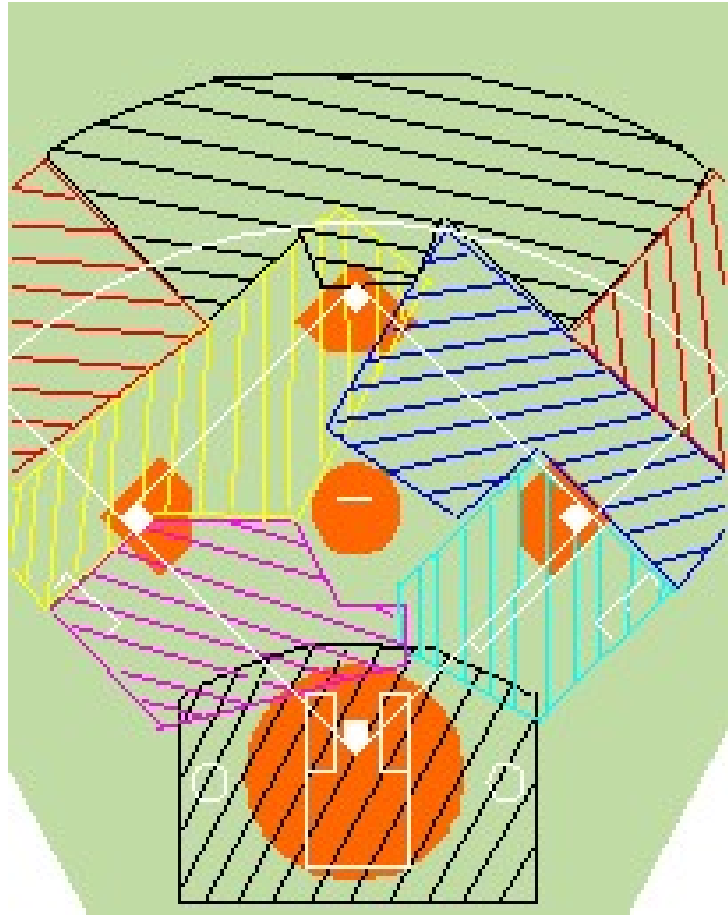
自分の正面と左手方向中心

センター

ライトからレフトまで。(セカンドスはセンターの範囲)

ライト・レフト

それぞれセンター側中間まで。(それぞれファースト、サードースは範囲である)



ベー
で。
のベ

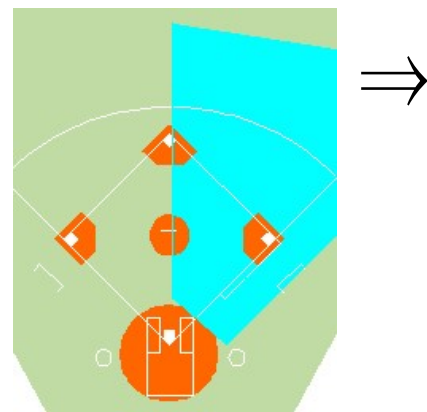
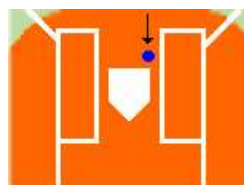
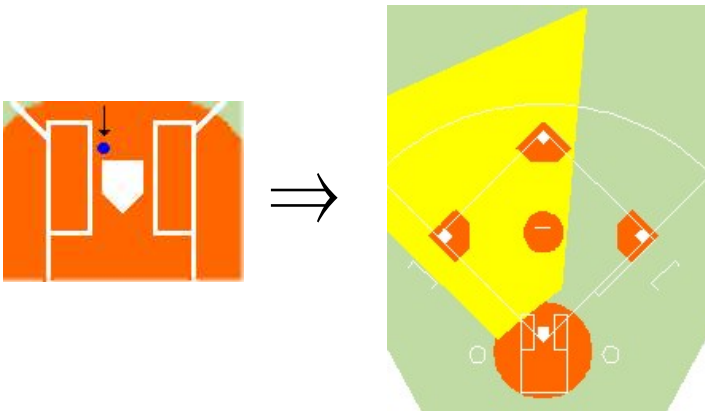
投球と打球の方向性

右バッター

インコース ⇒ サード、レフト方向
アウトコース ⇒ セカンド、ライト方向

左バッター

インコース ⇒ セカンド、ライト方向
アウトコース ⇒ サード、レフト方向



試合での応用

まずは基本形を十分理解させる事が必要である。

- 1) $1/3$ の原形
- 2) 四角形の原形
- 3) $1/2$ の原形

要は一番確率的に高い均一的配置そのものが、応用への一歩になる。

次に投球コース（上級者は変化球もある）、打者の左右等を考慮した移動を行う。また、スコアにより次打者の傾向も参考にする必要がある。したがって、投捕間の意志と内外野手との関係が重要になってくるため、十分な理解が必要となる。場合によってはベンチの指示が必要なケースもありうる。実際のゲームでは基本形のみでは成り立たず、状況をすばやく判断し、より効率的な位置取りができる様になりたい。そのためには思考するという行動ができるように日ごろから訓練させる指導が必要不可欠である。

選手が思考した結果、アンラッキーも含め思い通りにならなかった場合、結果のみで判断してしまうベンチワークは初心者の進歩をさまたげてしまう恐れがあるため注意したい。